

1月例会

メンバースピーチ

会員交流を目的に、毎月タイムリーなテーマやそれに伴う講師の方をお招きして、様々な情報収集または意見交換を行ってきたKVBC例会。21世紀最初の1月24日は、京都市職員保養所「みささぎ」（山科区）にて、会員の方々から自社の紹介や新規事業の取り組みなどをお話いただく「メンバースピーチ」が開かれました。

《地球環境に役立つ事業を》

(株) カーボテック 石橋 昇 氏

去年、京都ベンチャー奨励賞をいただき、それを機に入会させていただきました。創業3年にですが、それまではサラリーマンでした。これからの時代はITが環境分野が伸びていくだろうと考え、環境分野に絞り込んでリサーチを進めました。そしてリサイクル技術の一つとして、木造住宅の建設解体材、木屑、間伐材、街路樹の樹木の剪定枝、もみから、鶏糞、牛糞など、「有機性廃棄物」を炭にする技術に注目しました。この技術は日本の固有技術ですが、これまで工業化がされていません。私一人だけの技術ではありませんが、工業的に廃木材をいったんチップにし、それを連続して投入すれば約20分で炭化度の非常に高い良質の炭ができます。ただしこれは燃料にはなりません。炭素には①非常に燃えやすい②多孔質（微細な穴がたくさんあり、それによっていろんな物質を吸着できる）③電気伝導性（電磁波遮蔽などに使用）の3つの特徴があり、そのうちの多孔質の部分なら、私どもの技術が使えたとアドバイスを受けました。

木造住宅の床下に敷く炭として、備長炭などが売られています。2年間は工業製品としてはなかなか活路を見出せませんでした。しかし、ある方から今後、行政の焼却炉でダイオキシンの問題が出てくるので、ダイオキシンを吸着する炭素系の材料を作ればニーズはあると言われ、やってみようということで起業いたしました。事業コンセプトは、地域で発生する厄介なものを、地域の環境浄化に役立つということ。リサイクルは地球環境レベルのものや、家電リサイクル法のように広域の地域単位で活動をするものもあります。しかし、廃木材や有機性廃棄物は運搬に適していません。できるだけ移動せずに地域単位で効率的にリサイクルしていくのに、私どもの炭化技術は非常に有効ではないかと思えます。

<会員からの質問&感想>

Q. 炭がシロアリよけに役立つと聞いたが？

A. 活性炭そのものは梅雨時の湿度の高いときには湿気を吸着し、逆に冬場の乾燥しているときには湿気を放出するという特徴があるので、床下の湿度環境をある程度乾いた状態にする。乾いた木材はシロアリの食糧にならない。薬剤を散布するのではなく、活性炭の特徴を利用して、床下環境がよくなって木造家屋が長持ちするということを訴えている。

Q. 炭の市場価格は大体どれくらい？

A. ホームセンターに並んでいるキャンプ用の炭は、5キロで300円くらい。キロ当たり100円を切るような値段。一方、活性炭の高度なものはキロ当たり何十万円のものもある。

《中高年の積極的な生き方を応援》

(有)キャリアネットワーク京都 洲崎 行男 氏

ベンチャーはモノや機械、また目には見えないソフトであったりということですが、私どもは人が相手です。中高齢の方を対象に、積極的に生きようとする方々に対して手を貸そうと起業しました。中高齢の方の技術、技能、資格を世の中にもう一度還元していただき、人と人との交流の場を作っていたらこうと考えています。

意欲的なことや開発能力は、生物学的にも人間は一つのピークを迎えます。そこで仕事自体がルーティン化された決まった仕事を、60歳を過ぎた方にやっていただくことが必要になってくると思います。ある程度決まった仕事内容なので、健康に注意してもらうだけで十分に通用します。各企業の経営者は、ルーティン化の仕事は中高齢の方々に任せて、10年後のビジョンを明確にし、新しい社員に対して専化した教育・訓練を受けさせていくようにしないと、企業の発展は望めないと思います。

現在の求人登録者は約50名、求人企業は約10社ほど。人材の派遣という分野のハードルは高く、いろいろなやり方を模索しているところ。登録者は1/3が事務系（労務・総務・経理）です。60歳を過ぎた人の生活は年金などがあるので、自分の生きがいなどで有意義に過ごしていただく意味で、賃金はそんなに高くなくてもいいわけです。17、8万円くらいまででしょうか。ルーティン化の仕事はそういう方々に任せることによって、コストダウンも可能です。

生産の機械化によって合理化は進みましたが、事務の合理化もコンピュータによって一気に進み、単純業務が増加しました。つまり、やり方さえ覚えれば、高齢者でも十分にできる仕事が増えています。ぜひみなさま方のご協力をお願いしたいと思います。

<会員からの質問&感想>

Q. 一般に中高齢者の職業紹介は職安からのものが多いが、

A. 職安からの紹介の場合、高齢者を社員として雇うので経費の問題も発生する。60歳までの場合、会社都合で失職した場合は補助金が出るが、自己都合で辞めた場合は出ない。また60歳以上の場合、雇用促進という観点から1年間だけ助成はある。弊社はその人を社員として雇用して継続していける段階ではない。むしろ業務を請け負い、特殊な技能を持っている方にやってもらうという形を取っている。今年の前半くらいには派遣業務もできるようにしたい。

Q. 登録者は全員60歳以上？

A. 45歳の方もいる。

《新規業務で健康を提案》

(株) サカノシタ 阪ノ下 隆 氏

それぞれの産業における生産ラインの自動化への提案や物流ラインの省力化、オンラインをサポートする最先端機器など、サカノシタはファクトリーシステムの戦略をトータルにプロデュースする情報技術商社として昭和23年創業以来、京都の本社をはじめ大阪営業本部、浜松・栗東・八日市営業所など拡大してきました。

さらに若手社員のお客様とのコミュニケーションを高める手段として、本社企画部では「健康飲料・アロエ原液100%」という商品を扱い始めました。便秘解消、肥満防止、低血圧、高血圧、糖尿病などに効果があり、購入していただいた方からは絶賛いただいています。有機肥料・無農薬温室栽培のアロエを使用し、飲みやすく、原液を症状に合わせて量で服飲していただきます。

また、カロリーダイエットには「カロリーシャットアウト」という食物繊維加工清涼飲料水も販売しており、こちらも好評いただいております。飲み過ぎた、食べ過ぎた、という時飲んでいただくと、余分なカロリーを吸着して体外に排出するという新しい仕組みで、体内をきれいにしてくれます。どちらの商品もすでに何名かのKVBCのメンバーが購入してくださっています。また、各会員企業で新商品開発され、市場を探られている場合、わが社はいろいろな業界と付き合いがあるので、お役に立てることもあると思います。気軽にご相談ください。

<会員からの質問&感想>

●去年の暮れ、早速アロエ原液100%を1ケース15本を購入した。私の妻が長年、便秘で悩んでいたがたちまち解消された。いままでいろんな便秘解消の方法を試したが、これ1本で家庭円満に。

●私も糖尿病だが、前日に食べ過ぎたと思ったら、カロリーシャットアウト5mmリットルを10倍の水に薄めて飲むと次の日の血糖値は大丈夫。欲しい15mmで20キロカロリーのエネルギーをカットする。女性の場合、毎日5mm～10mmリットル毎日飲んでいればダイエットにも効果的。

《社員増加も目指して》

(株) キャット 岡田 啓史 氏

私は、高校・大学とも土木を専攻し、いまコンピュータソフトウェア業を10人ほど営んでいます。この業界に入ってから、ファームウェアでPOSシステムのECRというキャッシュレジスターの開発をしたのがきっかけで、独学でコトコトコンピュータの動作原理を勉強するようになり、約20年たちます。会社設立は約8年ですが、フリーの時代が長く、その間、POS関係の仕事や村田機械で自動走行配送センター、工場の自動化ラインなどの仕事を手がけていました。またシオノギ製薬の摂津工場、藤沢薬品の中央配送センター、大分のTDKの工場、海外ではマツダのデトロイト工場のプレス搬送などのシステムや、日本ネスレの販促管理の仕事などをやっています。

その後マイコンに戻り、堀場製作所のエンジン計測関係、水質、大気、電子顕微鏡などのソフトを主に手がけています。

設立後、インドの方にシステム開発を依頼したこともあり、仕事は国内外を問わずと考えています。会社は正社員数5名、個人契約と併せて約10名で、その制御や通信を主体としたプログラム開発をしています。去年の6月頃は通信制御の仕事も少なかったのですが、最近では徐々に案件数も増えてきて、明るい兆しが見えてきています。が、絶対的な仕事量が確保できているとは思っていません。KVBCに入会したのも、今後社員も増やし、安定した大きな会社にしていきたいからです。求人してもなかなか人材を採用できず、求人フェア等に参加して勉強していきたいと考えています。今後も制御や通信関連の仕事が中心になりますが、一方でIT関連の仕事も確実に押さえていきたいと考えています。

<会員からの質問&感想>

Q. インドのソフト開発の現状は？

A. インドでは国がソフトに関してはかなりバックアップしており、アメリカに本社のある企業だが、政府から多大な補助金を受けて開発に取り組んでいた。

《古い体質をプラスへ》

(株) 富田屋 田中 峰子 氏

私は去年8月に「京都西陣、愛すればこそ」という本を執筆しました。伝統産業のあり方に疑問を持ち、これではいけないという改革の本です。それをきっかけに誘っていただき、私のやっていることを少しでも知っていたら歴史とも思い入会しました。

さて、伝統産業は長い歴史の中で、企業としては非常に垢がたまっている状態です。悪い風習も昔のまま。人間関係もずっと変わらないので、なかなか改革をしていくのが難しい業界です。昭和40年代は何もなくても売れた時代でしたが、その時代の栄光をいまだに引きずっている社員が多いのです。それを改善するのはベンチャーよりも大変なことです。

いま、うちでは新しい事業としてカルチャー「和道」というのをつくりました。誰でも10回で着られるように、1対1で丁寧に指導することで、さらに日本文化に興味を持っていただきたいのです。もうひとつは、うちの店が京都市から国の文化財に指定され、公開することになりました。大島のお茶席があるのを3000円程度で着つけしたり、珍しい本格的なお茶席があるので、そこでお茶と着ながらお菓子を出したり。町家を見ていただく、きものを着て写真を撮ってあげる、そういった文化に触れる1日も企画しました。

新しいことを考えるというのは非常に大切なことですが、日本人としてそこに行き着くまでには「淡交」、つまり淡く触れる、ということも大切だと思えます。ベンチャー企業というのは伸びる、ついうまく、そんな中にも何かホッとする空間、そういうものを私はいま考えています。

<会員からの質問&感想>

Q. 最近のは、長い研究の末、天然カラーの絹を出す蚕が登場したと聞いた。染料で染める必要がない上、肌にもやさしいので繊維業界の活性材料として期待されているが？

A. 無地のきものなら可能。しかし、京都の友禅染は職人が一つひとつ丁寧に染め上げる技法。染めと織りは違う。